

## 第11回

[日 時] 平成30年10月13日（土）18:30～20:30

[場 所] 百俵館 石巻市小船越字山畑343-1

[テーマ] 世界に誇れる石巻地域にしよう～発信！未来へ～

[使用したテキスト] 『耕人』第7-6号.pdf（塾長から塾生へのメッセージ）

[活動内容詳細]

●挨拶（石巻・川の上プロジェクト理事長 三浦 信行 氏）

「百俵館」は、長岡藩の米百俵のエピソードにちなんで、人材育成の場として設立されました。「百俵館」では、小林虎三郎が提唱する「米俵百俵の精神」に基づく地域の拠点を目指しています。戊辰戦争後、長岡藩は困窮していました。そこへ支藩の三根山藩からお見舞いとして米百俵が届きました。これを長岡藩大参事であった小林虎三郎は、「食えないからこそ、学校を建てて人材を育てるのだ」という信念を貫き、皆の反対を押し切って「国漢学校」を建てました。それが長岡の復興に繋がっていったといわれています。町や国の発展のもとになるのは、人材の育成です。塾生の皆さんが志をもち、人間力を一層磨いてほしいと、激励されました。



今回の会場である「百俵館」を設立した石巻・川の上プロジェクト理事長で国土舘大学前学長 三浦信行氏から開会のご挨拶をいただきました。



研修は、「百俵館」と隣接する「耕人館」を利用しました。静かな環境の中で、塾生は研修を深めました。

●講師の自己紹介 ～自身の人生に触れた内容の自己紹介～

プロジェクト「I」は、「であい」と「ふれあい」と「関わりあい」の3つの「あい」＝「I」になります。3人の講師の方の話を聞きながら「であい」、次に講師と塾生が交流して「ふれあい」、「関わりあい」ます。塾生は、メモを取りながら真剣に話を聞いていました。

■石巻こけし作家：林 貴俊氏



立町商店街で呉服店をしながら、石巻こけしを作っています。33歳で石巻へ戻ってきました。石巻こけしを創作するきっかけは、震災後、視察や観光で立町へ人が訪れる機会がありましたが、気軽に買えるお土産がありませんでした。いつでも形として残るお土産になるものをつくりたいという思いから、「石巻こけし」の制作を始めました。「石巻こけし」とは、技術や技法に規定がある『伝統こけし』ではなく、型にとらわれず自由な発想で制作する『創作こけし』の一種で、絵付けの色は赤・青・白のマリンカラーをイメージするなど石巻の港町をモチーフに取り入れています。

■一般社団法人 ISHINOMAKI 2.0 理事：齊藤誠太郎氏



ISHINOMAKI 2.0は、東日本大震災で大きな被害を受けた石巻市を震災前の姿に戻すのではなく、震災を契機に地域の課題を地域内外の力を結集し、コミュニティの創出や人材の育成を目指す新しい街へのバージョンアップ事業を展開。メンバーには、地元の若い店主やNPO職員をはじめ、建築家、まちづくり研究者、広告のクリエイター、インターネットビジネス関係者、学生などさまざまな職能を持つ人々

が、石巻内外から集まっています。平成24年2月には一般社団法人として基盤強化を図り、地域内外の視点から、コミュニティスペースの開設、フリーペーパーの発行、イベントの開催、地域のものづくりの場づくり等、20を超えるプロジェクトを実施しています。

■一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン事務局：高橋 由季氏



この職業に就いたきっかけは、地元のために何かしたいとの思いがあったからです。フィッシャーマン・ジャパンでは、「漁師」という職業のこれまでのイメージを変えるために「新3K（カッコよくて、稼げて、革新的な）の産業」創りを目指しています。

現在の石巻地区の漁師の平均年齢は65歳。2024年までに新フィッシャーマン（漁師、加工業に従事する人、記者、カメラマンなど漁業に関わる仕事全てに関わる人を指す）を1,000人創り出すことを目標とし、新しい働き方の提案や業種を超えた関わりによって水産業に変革を起こすことを目指しています。

●交流

塾生が3グループに分かれて、3人の講師のところに移動し、塾生の質問に講師が回答します。

■石巻こけし作家：林 貴俊氏



高校生は活動する範囲が狭くなりがちだが、積極的に活動に参加して、色々な人の話を聞いて欲しい。自分がなぜ石巻にいるのかは、自分でも分かっていないが、どんどん石巻の外に出て活躍して欲しい。

■一般社団法人ISHINOMAKI 2.0 理事：齊藤誠太郎氏





ISHINOMAKI2.0では、『世界で一番面白い街を作ろう！』のキャッチコピーをもとに、若者が住みやすい・生活しやすい街にしようと、様々な形で街づくりをしている人が集まっている。また、使われていない場所をリノベーションして、人が集まる場所づくりをしている。

■一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン事務局：高橋 由季氏



漁師の魅力を多くの人に分かってほしいと思い、紹介動画を作った。その動画を製作するために多くの人の協力をいただいた。一人ではできないことでも、チームで取り組むことによって可能になる。

●講評（横江 信一 運営委員長）

今回は、3名の講師の方のお話を聴きながら、「であい」と「ふれあい」と「関わりあい」の3つの「あい」を通した発見があったのではないのでしょうか。発見したことをこれからの生き方に生かすことが大切です。「凡事徹底」という言葉がありますが、当たり前のことを当たり前にとただやるのではなく、当たり前のことを見方や考え方を深めながら、人には真似できないほど一生懸命やるところに新たな発見がある気がします。

メニュー

ホーム



耕人塾の活動



令和2年度の活動



令和元年度の活動



平成30年度の活動



第13回「耕人塾」第7期 閉塾式

第12回

第11回

第10回

第9回

第7-8回 宿泊研修

第6回

第5回

第4回

第3回

第2回

第1回

平成29年度の活動

>

平成28年度の活動

>

平成27年度の活動

>

平成26年度の活動

>

平成25年度の活動

>

平成24年度の活動

報道・受賞